

## 第3回 松戸駅周辺まちづくり委員会議事録（概要版）

日 時 平成27年1月22日（木）10時～12時

場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

出席委員 委員15名（別紙委員名簿のとおり）

欠席委員 なし

事務局 街づくり部審議監 街づくり課長 街づくり課専門監  
市街地整備担当室長 市街地整備担当室長補佐 他7名

傍聴者 11名

次 第

1. 松戸駅周辺まちづくり基本構想素案について
2. その他

配布資料

1. 次第
2. 松戸駅周辺まちづくり基本構想案（新旧対照表）
3. 松戸駅周辺まちづくり基本構想案（たたき台）
4. 松戸駅周辺まちづくり基本構想素案
5. 委員名簿

## 事務局説明

- ・基本構想案（たたき台）について、基本構想素案からの変更点を、配布資料を基に説明。

## 審議内容（各委員からの意見）

### 【基本構想のコンセプトについて】

- ・憧れのまちである松戸をもう一度復活という強い意志を掲げたい。
  
- ・「世界一」はどうかと思う。東京都も使っているし、松戸は規模からしても「日本一」くらいが良いのでは。  
⇒住宅地をイメージしての「世界一住みたいまち」であって、世界都市になろうというものではない。世界を見ても、住みよいまちは小さいまちである。  
⇒住みよいまちというのはいいが、観光資源や歴史の宣伝による集客との両面を捉えないといけない。
  
- ・「世界一」にこだわるわけではない。「住みたいまち」が一番大切なところ。
- ・コンセプトは基本構想に限らず色々な所で使われてほしいので、短くシンプルで伝わりやすい言葉が良い。
  
- ・市全体の構想ではなく、核となる中心市街地のための構想。
- ・構想のターゲットは今住んでいる48万人に限らず、大学の卒業生など昔住んでいた人が戻ってきたくなくなるということも含めてイメージしている。
- ・「ルネッサンス」（再生）という表現は先人の努力を否定するような面があるので、更なる高まりなどといった位置付けとしてはどうか。
  
- ・構想の主体として、住んでいる人がより住みやすくなることと、色々な人に来ていただくことのどちらを柱にするかで違ってくる。個人的には後者も含まれると解釈している。  
⇒市民が快適な生活を送り、駅周辺で買物や文化活動を行っているまちであれば、他所の人も来るようになるという二段構えと思っている。
  
- ・「世界一」は大げさに感じる。大きいタイトルが欲しければ「宇宙一」などでも良いのでは。
- ・駅周辺のまちづくりの計画なので、「住みたいまち」はイメージと違う気がする。副題にある「にぎわい」がポイントと思う。「世界一」と「住みたいまち」を取ったほうが計画の内容に当てはまるのでは。

- 例えば「松戸ルネッサンス宣言」、副題で「“にぎわい”と“やすらぎ”のまちへ」としては。「ルネッサンス」を嫌うのであればその部分だけ他の言葉にしては。

- 他のまちでは、来てください、商業活性化など、70年代のような右肩上がりのキャッチコピーが使われるが、それは違うと思う。

- 中心市街地を考える構想で「住みたい」は確かにズレがあるが、住んでいる人が使いこなせなければ、盛り上げていくことはできない。住むという視点からまちづくりや集客を切り直していけるかと思い、あえてズレをコンセプト、キャッチコピーにしたかどうかと考えている。

⇒「住みたいまち」は、中心市街地が快適で賑わっていて、出かけていきたくなることも含めたイメージと考えている。

- 駅周辺のエリアを決めた中で、住みよいということを出すと、そこに住居を移すようなイメージとなるのでは。

- コンセプトの言葉は考えるとして、魅力やにぎわいを生むための実務にも力を注いでほしい。

#### 【各ページの記述について】

《構想案（たたき台）1ページ（新旧対照表2ページ）》

- 個別事業の表記を追加したのは良い。
- 社会の変化にあわせ5～10年で適宜見直しを行うとあるが、構想はそのスパンが良いが、個別事業に関しては1年ごとなど短いスパンで見直し、市民の意見を取り入れられる仕組みを作ってほしい。

《構想案（たたき台）3ページ（新旧対照表4ページ）》

- 外環道の松戸IC整備予定は書いてあるが、常磐線の東京・品川乗り入れも追加してほしい。

《構想案（たたき台）5ページ（新旧対照表6ページ）》

- 公共施設の再配置計画的な側面をもう少し出したほうが良いのでは。
- 食文化や地場産業に関する記述が散逸しているので整理すべき。

《構想案（たたき台）6ページ（新旧対照表8ページ）》

- 羽田空港へのバス便の新設は、大きなインパクトを駅周辺にもたらすと思う。
- 現状、駅西口にバスツアーのターミナルがあり東北方面等へのツアーに使われている。羽田直結のバスターミナルと一体化して整備すれば、日本観光の起点にもなりうる。乗

り換え待ちの観光客がまちに出ることで回遊性も生まれるのでは。

- ・その場合、駅周辺を免税特区のような扱いに出来れば、交通の結節点だけではなく松戸で買物を楽しんでもらうまちづくりができるのでは。
- ⇒羽田へのバス便という表記ではインパクトが弱いので、バスターミナルというように大きく表記する手もある。松戸から国内各所に短時間でいける立場を得るので、そこも含めた評価を。
- ・これからオリンピックもあるので、お台場地区に行くなどのバスターミナル的な発想はあったほうが良い。
  - ・バス関連の表記は強化したい。乗り換えによる回遊性についても、施策をきちんとやらないと客は帰ってしまうので、目標を作って取り組むのが良い。
  - ・食文化で何か名物を作ったほうが良い。羽田直結と食文化の名物作りがセットになると、話題になると思う。

《構想案（たたき台） 7ページ（新旧対照表 8ページ）》

- ・公共施設再編、複合施設建設については、個別の事業案でより詳細を練る。
  - ・公共施設はどうあるべきかというイメージが弱いのではないか。
- ⇒【事務局】公共施設再編については市でも取り組みが動き出している段階で、具体的なことは現段階では構想に書きづらい。
- ⇒昔ながらの単なる公共施設ではない、融合した新しいコンセプト、溜まり場になる、時間を過ごすためになるというようなことを表現したい。

《構想案（たたき台） 8ページ（新旧対照表 10ページ）》

- ・単に回遊性、滞留性だけではなく、来客を高めるといったキーワードが1つ入ると良い。

#### 【構想全体について】

- ・PDCAサイクルの実行を打ち出すとともに、そのための委員会の継続を。
  - ・子供から高齢者まで楽しめる広場的な要素を盛り込み、イベント等に市内の4大学が共同で連携する旨の記述を入れてほしい。
  - ・細かいところを言うと切りがないが、あと1回でまとまるのか心配。
- ⇒この構想は大きさに言うと憲法のように、基本的な方針を示すもの。具体的な事業の障害になっていないか、促進する内容が入っているかをチェックしていただき、具体的な話は次の段階と考えていただきたい。

- ・たくさんの人が住んでいる中心として、中心市街地が変わっていくことが松戸市民全体にどう関係しているか、構想の中で住まい、生活を強調したメッセージを送る必要がある。
  - ・住んでいるということが先にあって、まちの魅力がある。住むということを中心市街地の視点として残していきたい。
- ⇒松戸の周辺に郊外が出来ていない頃は江戸川の向こうも含めた商業の中心だったものが、今の田園都市に変わってきたところで、双方を含め中心市街地の役割をどう考えるか。
- ・松戸は各地がバラバラになってしまっているところがあるので、松戸駅周辺は他地区の人も来なくなる、来る必要がある場所にしなければならない。その構造が分かりやすく出ている必要がある。
  - ・構想を作っても、具体的な整備には時間がかかり、市民からするとお蔵入りになっているイメージを持たれるおそれがある。清掃やソフト展開等で、整備が進む前の段階でも松戸が変わりつつあることをPRしたい。その旨を構想に表記したい。
- ⇒例えば「松戸中心ニュース」のようなものを、市役所だけではなく市民の賛同も得ながら、タウン誌としても役立つようなものを作れると良い。

### 【その他個別施策について】

- ・西口デッキのエスカレーター設置
- ・伊勢丹通りの整備、電線地中化。歩行者天国の実施。透明アーケードの設置。
- ・シンボル軸の道路環境整備（歩道、街路樹、街路灯）。
- ・ふれあい松戸川の整備。
- ・江戸川に歩道橋（吊り橋）の設置。
- ・NTT、旧商工会議所、市立図書館付近の再開発。
- ・地域活性化と災害時の危機管理情報発信のため、コミュニティFMの開設。
- ・松戸白かぼちゃのアピール。
- ・相模台に、避難所としても使える体育館を。

### 審議結果・連絡事項等

- ・基本構想案（たたき台）の修正は委員長と副委員長に一任し、後日事務局から各委員に配布する。
- ・コンセプトの文章は、「世界一」は言い過ぎと感じられる点、「住みたい」とすると中心市街地の商業などについて印象が弱くなる点、「ルネッサンス」は好ましく思わない方もいる点を踏まえ、委員長、副委員長、事務局で再度検討する。
- ・基本構想案を修正後、市議会への説明を経てパブリックコメントを実施する。

- ・第4回委員会は3月末に開催予定。内容はパブリックコメントの実施結果報告、基本構想の審議、市長への答申を予定。